

真田地域協議会 第1分科会 テーマ「地域ブランドの確立」

1 はじめに

真田地域では「地域まちづくり方針」にある『魅力ある農業の推進』『特色ある観光の振興』に向け、それぞれの戦略プランが策定され様々な取り組みが進められていますが、第1分科会では、その取り組みの効果を一層上げるために農業と観光の一体化した情報の発信が必要ではないかと考え、地域ブランドについて検討してきました。

真田地域の地域ブランドを確立することにより、真田地域で採れたものが高く売れる、あるいは加工したものが全国に販路を拡大することになれば、遊休農地の積極的な活用により地域農業の活性化につながるものと考えます。また、地域ブランドの確立は、真田氏をはじめとした歴史資産や素晴らしい自然など優れた観光資源にさらなる付加価値をもたらし、地域イメージの向上と共に地域産業の活性化及び一層の観光客の誘客が図れるものと思います。

2 現状と課題

地域ブランドになり得る物やイベントなど模索し、意見を交わすなかで、地域内で活動する様々な団体とその取り組み内容に着目し、それらの発展・活性化が糸口になるのではないかと議論を重ねました。

(1) 課題点として挙げられた項目

- (ア) 地域の中で様々な活動をしている個人・団体が存在するものの、各々の活動に留まり、互いの活動を知らず、連携・協力できていないのではないかな。
- (イ) 各活動団体の高齢化、後継者不足が深刻であり、リーダーシップを執る人材と地域内で中心となる組織がないことから地域の強みなどの特徴を活かした独自性溢れる視点に結びつかないのではないかな。
- (ウ) ゆきむら夢工房や周辺スポットでのイベントが単発になってしまっている。また、イベントの際に、ゆきむら夢工房の施設を拠点に活動している各専門部会と他の団体などがうまく連携できていないため、施設を有効活用できていないのではないかな。
- (エ) 地域のイベントなどの企画・運営において、行政の主導・行政への依存ではなく、地域住民自らが地域を考え、行動できる仕組みを作っていく必要があるのではないかな。

3 協議内容報告

課題点を整理し、次のように協議しました。

(1) 各団体の連携・調整・協力を図る仕組みづくり

真田地域で活動している各団体が、それぞれに活動するだけでなく、互いの活動を知り、連携・協力して地域イベントなどに取り組めるような仕組みづくりが

必要ではないかと考えます。まずは、真田まつり実行委員会を中核として地域内の団体に呼び掛け、定例的に横のつながりが取れる組織を立ち上げて情報を交換し、イベントの開催日程など調整を図ることからはじめ、将来的には各イベントを企画・運営する実行組織となり、一元的な情報発信ができることを期待します。

また、組織設立後は信州上田まつり実行委員会とのつながりを深め、各方面で連携・協力するとともに、観光客が中心市街地と真田地域を互に行き交い、滞在時間を増やしてもらうための研究に取り組んではどうかと考えます。

(2) 『真田ならではの』の創出

多様な団体が一堂に会する機会を創ることで人と人のつながりができ、情報や意見を交換するなかで、新たなアイデアや活動が生まれるものと思います。その中から、リーダーシップを執る人材や真田地域の特色あるモノが生み出されるきっかけになるものと考えます。

(3) ゆきむら夢工房を観光の拠点として活用

立地条件に優れる『ゆきむら夢工房』を真田地域の観光拠点として再認識し、地域で活動する団体が連携・協力して施設内の設備を有効に利活用し、イベントを企画・運営、あるいは参加することにより、地域の情報発信拠点として『おもてなし』の機能強化及び知名度向上が図れるものと考えます。また、これにより観光客のさらなる集客と地域間交流促進による地域の活性化に期待がもてるものと考えます。

4 おわりに

全国的に知名度と人気が高い真田氏、豊かな自然、良質な農産物など、豊富な地域の魅力をより一層活用した物品や催しを地域住民が主体となり考え、実行できる仕組みができることが、観光の振興や農業の活性化に良い効果をもたらし、地域経済の発展に寄与するものと考えます。